

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2022年9月1日 228号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



幼児用プールにて、次女のあーちゃん(1)。



美味しいマングルジューの大作です。



パラグアイ川で魚釣りをします。



今はライフジャケットを着て泳ぎます。



自主的にワークブックに取り組みます。



蝶を手を、(左より)長女ほーちゃん(3)、次男まー君(6)、長男とも君(8)。

レダに移住した島田ファミリーは今...

去る3月、多くの方々の関心と応援を集めてレダに移住した島田家の6名。今どうしているのでしょうか？

●島田賢二さんからの家族ニュース 学校がない開拓地、レダでの子育てについて気になっている方が多いと聞きました。そこで、今回は我が家の子育てについて、現時点(2022年7月)での内容をお伝えします。

我が家の一日は、朝6時からの訓読会(文鮮明先生の訓えを読む会)が始まります。その後、8才の長男と6才の次男は、七面鳥と魚のエサやりに行き、妻は朝食準備、私はゴミ捨てと洗濯物干しをします。

7時から朝食をとり、その後妻は1才の次女に授乳、私は皿洗いをし、8時半から12時まで仕事に出ます。その間、妻は昼食を作り、子供たちは本を読んだり、おもちゃで遊んだりして家で過ごし、料理後に家族で散歩をし、子供たちに30分だけPCゲームをさせます。

昼食後、妻は次女に昼寝をさせるので、私は長男、次男、3才の長女を連れてプールに行きます。

3時頃に家に帰り、シャワーをして、おやつを食べます。そして、子供たちにアニメを見せ、妻と私は交互に末の子の面倒を見ながら、自由時間を持ちます。

6時からの夕食は、研修所の大食堂で、他のスタッフたちと一緒に食べ、交流します。そして、家に帰り、寝る準備をして就寝します。

夜中、妻は授乳で何度か起き、私はアニメのダウンロード、日記、連絡、訓読会の準備、妻のマッサージなどをします。

これが我が家の日課ですが、いわゆる「お勉強」の時間はありません。学校がなく、家庭教師がいらないから、という理由もありますが、「やりたいことをやりながら学んでいけば良い」という教育方針だからです。

今は子供たちがプールを楽しんでいるのでプールに行きますが、他のことをしたくなければそれに付き合います。時には自分からやりたいと言って、ワークブックの問題を解いていることもあります。

「子供自身が、やりたいことをやりたいようにやることで、最適な学びができる」と思っています。サドベリーバレースクールを見本にしているので、ご参考ください。我が家の子供たちは、レダに来てできるようになったことがたくさんあります。(次面につづく)



毎週日曜日、岩澤所長が従業員を教育。



畑に豚糞を施すチャパボラ青年。8月1日



レダ基地スナップ

レダの黄蝶、Phoebis sennae sennae.



お腹も心も満たされて、交流会は大好評。



全従業員とスタッフの交流会。7月31日



交流会で、山崎氏が「島人ぬ宝」を熱唱。



修繕部門の新人、首藤君。8月15日



皆で目標の10匹を釣りました。8月14日



植田さんと富居さんの旅立ち。8月3日



内務部門の新人、田渕君が医薬品を整理。



養殖プロジェクトを学ぶ新人、山崎君(奥)。



養豚プロジェクトの新人、井原君。

島田家（一面よりつづく）日曜日の午前中は、長男と次男が毎週釣りに行くようになりました。プールで泳げるようになりました。犬や猫を撫でたり、抱っこできるようになり、七面鳥や魚のエサやりを毎日するようになりました。子供たちは、レダにある自然や施設、そしてスタッフたちから、たくさんのお話を学んでいます。

また、我が家では8日に一度、家族会議を開き、みんなの意見を聞き、話し合っ取り決めるようにしています。子供であっても発言の機会を与え、取り決めに反映することで、家族の連帯を図っています。日本を離れ、生活環境が大きく変わる中、新しく家族の暮らしを作っていくために、家族会議は欠かせないものです。このように各自が自由に過ごしながらも、家族の連帯を図っています。

親から「教える」時間は、訓誂会しありません。子供が大きくなれば、自分で本を読み、解釈して、生活に適用できるようにしてほしいのですが、今は難しいので、私が短くメッセージを選び、解釈した内容を聞かせます。「しつけ」はあまり上手くできていないと思いますが、気付いた時にその都度、すべきこと、すべきでないことを伝えるようにしています。言っても、やらないことがほとんどですが、伝えるところまでが親の責任だと思い、実行するかどうかは子供に委ねています。

こんな感じで、はたしてどんな大人になっていくのでしょうか。都会で暮らし、学校や習い事、研修などで教育されてきた自分とは、全く違う環境で育っていく我が子の未来が楽しみです。

持続可能な福地建設をめざして14

美しい海を取り戻そう

和田賢一



国際連合（国連）のSDGs（持続可能な開発目標）の14が今回のテーマです。「持続可能な開発のために海洋及び海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」と記されています。

海から私たちは何を連想するでしょうか。

穏やかな海岸で、浜辺に打ち上げる波を見ると心が癒されます。岩に打ち上げる波頭の力強さに畏敬すら感じます。しかしひとたび海が荒れ狂うと、人は恐怖すら覚え、ただただ鎮まることを願うしかありません。

私たちは海から豊富な魚介類を食料としていただいています。また、船舶による物流、風力発電、波力発電や海底エネルギー資源を利用しているのです。地球の表面積は約5億1千万平方キロですが、海の表面積は約3億6千万平方キロ、全体の約7割が海ということになります。人類は海なくしては生きてはいけません。

そのような海が、今や汚染され、変質し、不純物とともに混在しているといえ、大袈裟でしょう。そんな海について今回は考えてみましょう。

現在、海が抱えている問題を集約すると次の3点になります。

1 海洋ごみが増えている。

2 海洋汚染が拡大している。

3 海洋資源が減少している。

まず、海洋ごみについて調べてみましょう。世界経済フォーラムの2016年報告書によると、海中に1億5千万トンのプラスチックが蓄積・浮遊していると指摘。さらに毎年8百万トンのプラスチックごみが海に流れ込んでいくと警鐘を鳴らしています。一般社団法人「プラスチック循環利用協会」によると、日本国内の2019年のプラスチックごみ排出量は850万トンにのぼっており、その内訳は、包装・容器など397万トン、電気・電子機器16

2万トン、家庭用品・家具71万トン、建材60万トンなどとなっています。

さらに今注目されているのがマスクです。新型コロナウイルスのパンデミックによって、不織布・ウレタン製のマスクの使用量は並大抵ではありません。その大半はプラスチック製なのです。2020年に世界で製造されたマスクは520億枚。その内、国連などの推計によると3%が海



このような海の風景は、今や珍しくなくなりました。(Pixabay提供)

に流れたというのです。その数約15億6千万枚約5000トンに上る計算になります。

最近では、プラスチックごみの中でも厄介なのが、マイクロ・プラスチックといわれるもので、大きさが5ミリメートル以下の微細なごみです。魚類は無論のこと、クジラやオットセイなどの哺乳類も餌と一緒に体内に取り込んでしまうのです。人体にも悪影響があると指

流出、さらに生活排水なども海洋汚染の原因となっているのです。

今、注目を浴びているのが海水の酸性化です。地球温暖化への影響が最も大きいとされる二酸化炭素を海洋が吸収すると、海中のPhが低くなる現象を酸性化というのです。一般的に海洋のPhは弱アルカリ性です。Phが低くなると、貝類やサンゴなど炭酸カルシウムでもって骨格を形成する生物が骨格形成できなくなっていくのです。

気象庁の調査によると、ハワイ近海の水深250メートルでPhの低下速度がもともと早く海洋酸性化が進行していると公表しています。海洋食物連鎖の最下層にあるプランクトンなどに著しい影響が出る、その上位の魚介類にも影響が及んでくることは必至でしょう。

海洋資源の減少は、海洋汚染の結果生じることの他に、忘れてはならないことは、乱獲にも大きな原因があることです。国連食糧農業機関(FAO)の調査では水産資源の30%が乱獲されているといえます。それによって、持続可能な水産資源に頼る世界の数千万人が生活を脅かされているとも発表しています。

農林水産省の「平成29年度白書」によると、主要国一人当たりの食用魚介消費量ランキングで1位は韓国、2位ノルウェー、3位日本、そして中国、インドネシアの順になっています。アジア圏の国々が最も多く魚介類を消費しているというのですから、海洋問題にはより関心を持ちたいものです。

SDGsの第6で「水」について扱っていますが、湖沼、河川そして海洋はつながっています。さらに河川を美しく保つには、周辺の山林を保存することが欠かせません。そうした視点から、パラグアイのレダにおける私たちのプロジェクトも、出発当初より、陸上活動の汚染防止、河川資源の保護、淡水魚パクーの養殖・放流を一貫した課題として捉え、取り組んでいます。さらに、パラグアイ水系・パラナ水系を一体と見て、大西洋に注ぐアルゼンチンの河口までの流域に関心を持ってきました。こうした広域的展望は「海洋摂理」の視点に立つものであることは言うまでもありません。(つづく)

ぜひ開拓精神を持ってレダに来てください

富居祥菜（とみいさちな）さんは、去る5月から8月まで、親友の植田理恵子さんと共に、レダで熱心に奉仕活動に励みました。日本への帰国にあたり、レダでの体験と感想を簡潔に語っていただきました。

Q レダで担当したことは何ですか？

A 養豚と広報です。あとは農業と内部のお手伝いを少ししました。養豚では主に必要な資材や飼料などの運搬、広報ではFacebookやInstagramに日々の活動の報告を投稿しました。

Q レダで最も苦心したことは何ですか？

A 人との関わりだと思えます。自分の足りなさも感じましたし、失敗から多くを学びました。

Q レダで最も嬉しかったこと（あるいは楽しかったこと）は何ですか？

A 毎週日曜日にパクーを求めて船釣りをしていました。1カ月間1匹も釣れず、諦めかけていました。しかしレダを出発する直前の日曜日の船釣りで、大きなパクーを釣ることができ、このことがとても嬉しかったです。水落先生をはじめとして多くの方々に応援していただき、釣れた後におめでたうと言ってもらえたことも嬉しかったです。またそのパクーで小橋先生と一緒に作りにかまぼこを作ったこと、皆さんに食べてもらえたことも感動しました。



赤ちゃんブタの可愛さがたまらない。右端が富居さん。

Q レダはどんなところですか？

A 正直、レダは内的にも外的にも女性にとって簡単な環境ではありません。しかし自分の動機や目的をしっかりと持ち、少しでもレダのために貢献したいという思いを持って取り組んでいけば、自然や人を通して多く感じることもあると思います。また、レダはまだまだ発展途上なところなので、自分が主体的にやろうと思えばどこまでも伸びていく、可能性の溢れている場所だと思います。ぜひ開拓精神を持ってレダに来てください。

Q 将来の抱負をどうぞ。

A レダに来て、自分が神様のプロジェクトのために何ができるか考える良い機会となりました。まずは幸せな家庭を築くことを神様は願っているし、そして外的にももっと役に立てる人間になれるよう、こ



最終チャンスで釣り上げたパクーはかなりの大物。

れから様々な経験を積んでいきたいと思います。

Q 日本と世界の皆様に最も伝えたいことは？

A 可能であれば、神様と文総裁ご夫妻の準備された土地であるレダに来て、そのプロジェクトを実際に目で見て、感じて、体験して欲しいということです。そしてぜひレダプロジェクトのためにご自身の心と汗を投入してみてください。ここに来なければ一生経験しなかったであろうこと、感じなかったであろうことなどと、たくさん出会うことでしよう。

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

支援金振込口座: ゆうちょ銀行

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: <https://asd-nsa.com>

Facebook: <https://www.facebook.com/ledaproject.jp/>

会員の皆様へ

会員の皆様には、周囲の方々にレダ・プロジェクトを紹介し、入会の案内をしていただければ幸いです。紹介用のパンフレット（印刷済み）、および入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。



入会申し込みは、左のQRコードから、グーグルフォームでも行えます。パソコンでは、下記のURLにアクセスしてください。

<https://asd-nsa.com/nk/>

レダ・プロジェクト紹介 用パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



<https://asd-nsa.com/sk/>